



すだじいの百年日記 vol.1

～栗東景観よもやまばなし～



▲2月の記念植樹では、“森の王”とも呼ばれるどんぐりの樹「クエルクス・ローバー」を植えました（写真右）
3か月で若葉が茂ってきました（写真左）

※「すだじい」は、ブナ科の常緑広葉樹で、実のどんぐりは食べることができます。どんぐりは「団栗」。団結する栗東市民を意味します。このシリーズは今後、継続的に掲載します。



第1回寄稿
織田 直文 氏

百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画
策定委員会 委員長
京都橋大学 現代ビジネス学部
都市環境デザイン学科 教授

「まち」というのは、長い間に人間が自然と仲良くし、人間の幸福を願って物を築きあげて作った芸術作品である。芸術に美を求めように、私たちは美しいまちを求め。そして「まち」が一朝一夕でできあがらないように、いい景観づくりもすぐにはできない。「百年くらいはかけてみよう

よ」というのが私たちの提案であり、だから、小さな一本の苗から大木になるまでを育てる思いで「どんぐりの樹」を植えたのである。「どんぐりプロジェクト」誕生の瞬間である。そして、そこに「どんぐり（首領栗）の樹」と題した案内板を立てた。

私たちが景観を育む間に、実は景観が私たちを育んでくれる。人間は、美しいものを見て育てば心は美しくなり、醜いものを見て育てば心が荒む。特に感受性豊かな子どものころに見たふるさと景観の影響は大きい。素晴らしい人間を育てようと思えば、美しいふるさと景観を創ることは、今を生き私たちの責務なのだ。美しい景観は、多くの人を引き

▶下記の詩が記された「どんぐりの樹」案内板



百年先のあなたへ

百年先の栗東は
どうなっていますか
あなたたちへの預かりもの
故郷の風景くわがまち栗東を
しっかり手渡すことができたでしょう
か
この美しい故郷の風景を守り育て
あなたたちへしっかり手渡したい
この想い 届いていますか

付けてやまない。一方で人々に安らぎを与える景観があれば、躍動感に満ちた活力ある景観も捨て難い。心地よささまざまな景観が活き、そこに心美しき人間、活力と魅力あふれる人たちが生きる都市「栗東」が、少しずつできあがり、百年後に生きる人々に、「百年前を生きた先人さん。すだじいさん。素晴らしいプレゼントをありがとう！」と言ってもらえたら、どんなに幸せだろう。そんなことを夢みながら、これから栗東の景観よもやま話をつづつていきたいと思う。

①「どんぐりプロジェクト」では、すだじいの苗木を100本配りました。各家庭で育てていただき、数年後に公共施設などに植え替える予定です。